

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		7,775	t-CO ₂
（温① 二室を 酸効除 化果く 炭ガ 素排 換出 算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		7,775

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度		
温室効果ガス 総 排 出 量		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			%		%		%	%
温室効果ガス みなし総排出量			t-CO ₂		t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			%		%	%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
原単位あたりの 排 出 量	0.9772	t-CO ₂ / ton	0.9479	t-CO ₂ / ton	1.161	t-CO ₂ / ton	1.134	t-CO ₂ / ton	1.178	t-CO ₂ / ton
削減率（対 基準年度）		3.0	%	▲ 18.8	%	▲ 16.0	%	▲ 20.5	%
原単位あたりの みなし排出量			t-CO ₂ / ton		t-CO ₂ / ton		t-CO ₂ / ton
削減率（対 基準年度）			%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

<p>原単位改善の活動は進めています。製品出荷量26.8%減量の影響が大きく、原単位は20.5%悪化しました 主な要因は ア. 稼働率が低下で、放散する溶解炉耐火物の保有熱を補う電力と都市ガスが増加し、原単位が7%悪化 イ. 生産量の大幅な減少に合わせた運用を推進するも、製品納期に合わせた稼働が必要な場合もあり、 減産に見合う保熱エネルギー削減が未達し、原単位が9.5%悪化 ウ. 原単位の低い製品の受注が減少し出荷量比率が9%低下したことにより、原単位が4%悪化</p>

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
都市ガス原単位 の低減 金型予熱炉 熱処理炉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 炉壁の断熱強化による放散熱の削減 ・ 定期メンテナンス、補修による能力の維持管理 	削減目標：20千 m ³ /年 実現時期：令和 4年4月から順次	熱処理炉のバー更新完了及び定期メンテナンス、補修をR5.12月に実施原単位フォロー中
AOD予熱・保熱用 都市ガスの削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ AOD稼働（ベッセル交換）の計画的な運用 推進 による予熱・保熱エネルギーの削減 ・ 保熱時の投入エネルギー適正化 ・ 定期メンテナンスによる能力の維持管理 	削減目標：5千 Nm ³ /年 実現時期：令和 4年4月から	生産量の大幅な減少に合わせた運用を計画するも、技能伝承及び製品納期を優先し、低頻度稼働としたため、減産に見合う保熱エネルギー削減が未達し、原単位が悪化
不良率・直行率 の改善継続	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不良屑化対象品および慢性不適合の原因調査を詳細に行い、製造条件の見直しを図り、再発及び類似不良の抑制を図る活動を継続。 	削減目標： 3500GJ/年（電 力 320kWh/ 年、都市ガス 15千m ³ /年） 実現時期：令和 4年4月から	不良屑化対象品の調査を詳細に実施し、製造条件の見直しを図り、再発及び類似不良の抑制を図る活動を継続中
工場エア－漏れ 撲滅	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2回/月 パトロール 	削減目標：10千 kWh/年 実現時期：令和 4年4月から	環境専任者による日常パトロール及び環境パトロール(4回/年)による適切な設備管理が継続できていることを確認
溶解電力の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 操業-出鋼温度の適正化（低温化） ・ 操業休転時間の短縮による放散熱の削減 	削減目標：200 千kWh/年 実現時期：令和 4年4月から	出鋼温度の低温化による作業性の悪化のため、中断作業性の改善のため、昇熱方法見直しをテスト確認中

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目（令和 6 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

ア. 省エネパトロールを含む環境パトロールの実施 イ. 定時退社日を設定し、残業による空調機や照明の電力削減に継続して努める（1回/月） ウ. 事務所及び現場詰所の昼休み天井照明消灯活動継続 エ. 冷却水ポンプ、集塵用排風機や照明等、切り忘れの見える化を推進
--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

ア. 従業員への環境認識教育や啓蒙活動を継続実施…世界の脱CO ₂ に向けた動向について イ. 生産現場で環境事故を想定した対応マニュアルの有効性確認及び実地訓練を実施 ウ. 工場周辺の清掃を継続実施（2回/年）
